

ぶら研

「すんくじら」

令和6年度 志和池小 校長室から ぶらっと研修 14 9月30日 文責 田爪

学級通信をのぞき見

写真は撮っていませんが、このほかに、素敵な瞬間(よい行動)がたくさんあります。

ポジティブ行動支援 (PBS) という言葉を御存じでしょうか。これは、

- よくない行動が起きた後に支援するのではなく、**予防的な支援**(悪い行動が起きにくくする手立て)を行うこと。
- **できていないことに着目するのではなく、できていることに着目すること。**
- **望ましくない行動を「叱る」のではなく、望ましい行動が見られたときに「褒める」**こと

学級でも、「間違いに気づけたことを褒める(叱るのではなく褒める)」

「次への改善策を考え、伝えることを促す(予防的支援)を意識しています。

よい行動が見られたときは大いに褒めます。よくないことを毅然とした態度で叱ることももちろん大切です。

しかし、日々の子どもの頑張りと努力は、見逃さず褒めていきたいです。

【れんらくファイル(保護者の皆様からのメッセージ)より】

- ・ 帰宅すると毎日のようにお友達が来て一緒に宿題をしています。教えあいながら「あーでもないこーでもない」「ここは●●だよ」と取り組んでいます。
 - ・ 宿題に取り組むのに時間がかかり、ダラダラしてやる気がないような感じでした。声掛けをしたら真面目にプリントを解いていました。
- ⇒ 日々の悩みや成長の様子を伝えてくださりありがとうございます。家庭での様子を知ることができ、感謝の気持ちで読ませていただいております。

PBSの考え方について紹介し、その考え方に沿って指導していくという明確なメッセージが示されています。

このように意思表示(宣言)することで、常にこのことを意識できるように、あるいは継続することで無意識に実践できるようになるのだと思います。

運動会の練習で、叱る機会が増えがちです。

どうでしょう。あえて、子どもたちに「よい行動はどんどん褒めていくよー」なんて言うのも先手必勝ではと思ったところでした。

さて、保護者との連絡帳の紹介もありますが、保護者の悩み等に共感していることも、連携を図る上で大事だと改めて思われました。

「先手必勝で当たり前のことをほめる!」 「褒め方の極意」(東ちひろさんの著書)より

【給食当番の仕事をしている時に】

先生・〇さん、ごろうさま!今日から給食当番なんだね。(当たり前のことを、当たり前に行っていることをほめる)

【係の仕事(配り係)をしている時に】

先生・〇さん、いつもありがとう!助かるわ。(感謝の気持ちを言葉で伝える)

【休み時間に遊びに行く時に】

先生・お～、いいね、〇さん。次の授業の準備は完璧だね。(指導したことができていたらしっかりほめる)

【休み時間に友だちと遊んでいる時に】

先生・〇さん、たくさん遊べてすばらしいね!(子どもは遊ぶことに価値がある)

※ 「できて当たり前」の考え方では、「伸ばすチャンス」を逃してしまいます。当たり前のことでも、よりよい行動は、積極的に承認・称賛していきたいものです。

よく一斉音読をすることがありますが、一斉音読は、他人の声に合わせることで読みづらくなります。リズムを楽しんだり、ある部分を強調し言葉を理解させたりする場合は、一斉音読は効果的ですが、内容を理解しながら読ませる場合は不向きです。ましてや、それで考えさせるのは難しいでしょう。

一斉音読の場合にはその意図を明確にして、一斉に読む量を、1文など、限定する方がいいでしょう。

ペアでの交代読みやリレー読みなどを取り入れ、

子どもたち一人一人が自分のペースで内容を理解しながら読めるよう工夫するとよいです。

写真は3年1組。列ごとに1文ずつ読んでいます。その前の時間は一人ずつ読んでいました。

みんなで声をそろえて読むことを重視してはいません。

